

科目名	心理学				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

心と身体、発達について知り、自己と他者に役立つ技術を身につける。

授業計画

1	心理学とは
2	心のしくみ
3	感覚の知覚
4	記憶
5	欲求
6	人の性格
7	学習
8	社会心理
9	家族心理
10	ストレスと健康
11	発達心理学
12	カウンセリング技術Ⅰ
13	カウンセリング技術Ⅱ
14	カウンセリング技術Ⅲ
15	試 験
成績評価法	試験・レポート・授業態度による
使用テキスト	なし
備 考	プリントを配布

科目名	論理学				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

- ①思考形成の過程における法則性や因果関係を学ぶ。
 ②わかりやすい、誤解されない、論理的な文章表現を学ぶ。

授業計画

1	<課題文Ⅰ>・テキスト1
2	テキスト2
3	テキスト2
4	資料A
5	テキスト2
6	テキスト3
7	テキスト3
8	テキスト4
9	テキスト5
10	<課題文Ⅱ>
11	テキスト6
12	テキスト7
13	資料B
14	テキスト7
15	試験（事前に「テストについて」配布）
成績評価法	筆記試験（百点満点）／課題作文（三回）の評価（三段階）のうちA・B及び皆勤者にプラス点あり
使用テキスト	「論理学」テキスト1～7
備考	①テキスト及び副教材は以下の著作・雑誌発表文章などから作成 『論理学がわかる事典』（三浦俊彦著）、『作文技術』（本多勝一著）、『悪文』（中村明著）、 『日本語練習帳』（大野晋著）、雑誌『プレジデント』（2006-5-26号）後藤偵典著「書き方のコツ」 他 ②課題作文（2回）を添削・評価し、悪文・誤字などまとめ、教材とする 副教材：プリント「どこをどう直したらいいか」（三回）、「『敬語』の落とし穴」 <注><課題文Ⅰ>は初回に宿題とし、<課題文Ⅱ>は夏休み直前に実施する

科目名	教育学				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

学生個人が自己に則した目標を立て、その目標に対し適切な自己評価を行うことで、自主的に人間的成長をもたらすような計画を立てることができるようになる事。

授業計画

1	人間の学習と成長・発達
2	教育の種類 自主的な学習と生活との関連
3	家庭教育
4	教育の目的
5	教育評価①
6	教育評価②
7	教育評価③
8	試 験
成績評価法	出席と試験により評価する
使用テキスト	系統看護学講座 基礎分野 教育学
備 考	プリント配布

科目名	社会学				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

本校教育の理念・目的・目標に照らし、混迷する現代社会の中で、感性を研ぎ澄まし、常識を疑いながら、身近にある様々な現象を、相対的・総合的に把握するものの見方や考え方を身につける。

授業計画

1	社会学とは何か
2	社会学で考える
3	社会と集団
4	会社を理解する
5	メディアと情報社会
6	現代社会に求められるもの (1)
7	現代社会に求められるもの (2)
8	試 験
成績評価法	毎回、課題を提示し、それに対するレポートを提出して頂き、その結果と定期試験及び平常の質問に対する回答や授業態度等を総合的に評価する。
使用テキスト	レジュメを作成し提供、それに関する新聞記事をコピーし提供、教材とする。
備 考	副教材：「はじめて学ぶ社会学」、「基礎社会学」、「論文作成の留意点」

科目名	情報学				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

現在情報機器はあらゆる業界で使用されており、現場においてデータ・情報及び知識を管理し、コミュニケーションをとる上で必要となるスキルを持つ事を目標・目的として情報学から学習する。この情報学では汎用性の高いWindowsとOfficeアプリを用い、仕事を効果的に行うスキルを習得する。

授業計画

1	ガイダンス、情報分野の概要、OSやネットワーク基礎
2	文書作成基礎
3	文書作成応用
4	表計算基礎1
5	表計算基礎2
6	表計算応用
7	プレゼンテーション基礎
8	試験
成績評価法	出席回数が規定内である者が、第8回目の講義で単位認定テストを受け、60%以上で認定となる。テストはOfficeアプリ(Word Excel PPT)から出題、全アプリにて回答がなされている必要がある。
使用テキスト	情報リテラシー 入門編 (FOM出版)
備考	

科目名	生物				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

生物学の知識を深めることにより主にヒトという生命体の不思議を知り、命の大切さに深い理解を持った視能訓練士を育成する。生化学や生理学の基礎を学習し、次年度の専門科目への導入としての役割を果たす。

授業計画

1	生命体の誕生と細胞
2	生命を構成する物質と代謝1
3	生命を構成する物質と代謝2
4	生命を構成する物質と代謝3
5	生命を構成する物質と代謝4
6	まとめと確認テスト
7	遺伝情報の担い手 1 DNA
8	遺伝情報の担い手 2 RNA
9	遺伝的疾患の診断と治療
10	まとめと確認テスト
11	各器官系の働き①呼吸系
12	②消化系 ③循環系
13	④免疫系 ⑤排出系
14	⑥内分泌系 総合
15	試 験
成績評価法	確認テスト 試験 課題 授業態度 出欠席等総合的に評価する
使用テキスト	系統看護学講座 生物学（医学書院）
備 考	副教材：やさしい基礎生物学（羊土社） 医学薬学系のための基礎生物学（講談社） 生命化学（東京化学同人） ポートの生化学（化学同人） 解剖生理学（メディカ出版） 人体の構造と機能（医歯薬出版） 他

科目名	物理学				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

生理光学の基礎としての物理光学と幾何光学。

授業計画

1	基礎光学 1
2	基礎光学 2
3	基礎光学 3
4	基礎光学 4
5	球面レンズの結像 1
6	球面レンズの結像 2
7	球面レンズの結像 3
8	球面レンズの結像 4
9	球面レンズの結像 5
10	球面レンズの結像 6
11	球面レンズの結像 7
12	球面レンズの結像 8
13	球面レンズの結像 9
14	眼の屈折系
15	試 験
成績評価法	定期試験
使用テキスト	プリント教材
備 考	使用器材等：オプティカルベンチ、反射・屈折試験器、全反射試験器、混色試験器 等

科目名	数学				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な式や方程式などの計算がスムーズに出来るようにする。 ・ 関数の意味を理解し実際に利用できるようにする。 ・ 確率の基礎を確認し統計学につなげる。
--

授業計画

1	確認テスト
2	数と式1
3	数と式2
4	等式1
5	等式2
6	確認テスト
7	指数と対数1
8	指数と対数2
9	関数1
10	関数2
11	確認テスト
12	順列
13	順列と組み合わせ
14	確率
15	試 験
成績評価法	試験 確認テスト 授業態度 出欠席等総合的に評価する
使用テキスト	臨床検査学講座（医歯薬出版） 数学／統計学
備 考	副教材：プリント等使用

科目名	統計学				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

統計資料の整理や扱い、度数分布の特徴などを学び、レポートの作成などに利用できるようにする。

授業計画

1	確率 確率分布
2	統計学の考え方
3	統計学の分析概念
4	標本抽出
5	統計資料の整理
6	標本分布の特性値
7	総合授業
8	試験
成績評価法	試験 課題 授業態度 出欠席等総合的に評価する
使用テキスト	数学／統計学（臨床検査学講座） その他プリント等使用
備考	副教材：優しい医療系の統計学（佐藤敏雄著）、他

科目名	外国語（英語）				
学年	1年	時間数	45	単位数	3

授業概要

一般的な英語・医学英語を学ぶだけでなく、それを通して基本的な医学の知識も習得する。

授業計画

1	Chapter1 イントロダクション、細胞・器官および系
2	Chapter1 細胞・器官および系
3	Chapter2 循環器系
4	Chapter2 循環器系
5	Chapter2 循環器系の疾患
6	Chapter2 循環器系の疾患
7	Chapter3 血液
8	Chapter4 血液
9	Chapter5 血液の疾患
10	Chapter6 血液の疾患
11	Chapter4 呼吸器系
12	Chapter4 呼吸器系
13	Chapter4 呼吸器系の疾患
14	Chapter4 呼吸器系の疾患
15	Chapter5 消化器系
16	Chapter5 消化器系
17	Chapter5 消化器系の疾患
18	Chapter5 消化器系の疾患
19	Chapter7 神経系
20	Chapter7 神経系
21	Chapter7 神経系の疾患
22	Chapter7 神経系の疾患
23	試 験
成績評価法	試験・小テスト・出席・授業態度
使用テキスト	やさしい医学英語（医学書院）
備 考	副教材：医療英会話・その他プリント

科目名	体育（運動生理学）				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

身体の構造や機能を知り、筋肉の働きや動き方、特徴を理解する。

授業計画

1	健康と運動
2	運動と筋
3	運動と栄養
4	運動とエネルギー
5	トレーニングにおける身体機能の変化
6	加齢と運動
7	まとめ
8	試 験
成績評価法	出席状況・試験で評価する。
使用テキスト	特になし。授業時にプリントを配布。
備 考	副教材：プリントを配布する場合あり。

科目名	医学の成り立ちと医療				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

医療従事者としての医学の歴史を把握し、医療の倫理の変遷を理解する。
医療人の資質の骨格を形成する。

授業計画

1	医学・医療の歴史
2	医療の倫理の変遷
3	古代ギリシア・中世の医療
4	解剖・生理・病理の歴史
5	予防医学、画像診断の歴史
6	遺伝子医療と移植
7	眼科領域の医人
8	医療統計学
9	生命の起源と医の始まり①
10	生命の起源と医の始まり②
11	健康の基礎①
12	健康の基礎②
13	病気（疾患）の基礎①
14	病気（疾患）の基礎②
15	現代から将来の医療
16	試 験
成績評価法	試験・出席状況・受講態度
使用テキスト	新医学概論（森岡恭彦、養老孟司ら）
備 考	使用機器等：PC・プロジェクター 副教材：スライド教材・プリント配布

科目名	解剖学				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

視能訓練士として必要な解剖学的知識の習得。

授業計画

1	骨学総論
2	頭蓋骨
3	躯幹の骨
4	筋学総論
5	頭蓋の筋
6	躯幹の筋
7	神経学総論
8	神経学各論
9	神経学各論
10	脈管学総論
11	脈管学各論
12	内臓学総論
13	総復習
14	総復習
15	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	
備 考	使用器材等：PC、プロジェクター 副教材：プリント

科目名	生理学				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

細胞間伝達、細胞内情報伝達の基本的な機序を理解し、視覚機能における基礎的生理学的機能の背景を理解する。

授業計画

1	①体液 専門基礎分野 I-4 1) 細胞内外溶液 2) 血液組成と機能
2	①体液 専門基礎分野 I-4 1) 細胞内外溶液 2) 血液組成と機能 3) 免疫機能 専門基礎分野 I-5
3	3) 免疫機能 専門基礎分野 I-5
4	②消化機能 専門基礎分野 I-9 1) 消化管の働き 2) 消化酵素 3) 消化管ホルモン
5	③呼吸器 専門基礎分野 I-7 1) 気道の機能 2) 肺の機能
6	④心臓と血管 専門基礎分野 I-8 1) 心臓と血管の機能
7	⑤腎臓の機能 専門基礎分野 I-11 ⑥生殖器の機能 専門基礎分野 I-11
8	試 験
成績評価法	筆記試験（形成的評価） マークシート試験（総括的評価）
使用テキスト	
備 考	使用器材：プロジェクター

科目名	視器の解剖・生理・病理学				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

視機能を司る眼球、眼瞼、眼窩の解剖生理とその異常を考える

授業計画

1	眼瞼の解剖・生理
2	眼瞼の異常
3	結膜、涙器
4	眼窩と外眼筋
5	視路と視中枢
6	透光体 角膜
7	透光体 虹彩瞳孔
8	毛様体の生理
9	水晶体の生理
10	硝子体の生理
11	眼底結膜の生理（Ⅰ）
12	網膜の機能と生理（Ⅱ）
13	網膜の機能と生理（Ⅲ）
14	脈絡膜の機能と生理
15	強膜の解剖と病理
16	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	標準眼科学
備 考	使用器材等：プロジェクター（視覚教材スライド講義） 副教材：スライドプリントを配布

科目名	脳・神経学(臨床生理学)				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

視覚機能の基本的な機序を理解する。

授業計画

1	①内分泌機能 専門基礎分野 I-10
2	②神経系の構造と機能 専門基礎分野 I-12
3	②神経系の構造と機能 専門基礎分野 I-12 ③細胞の興奮性膜 専門基礎分野 I-12
4	3) シナプス
5	④末梢神経系 専門基礎分野 I-12 専門基礎分野Ⅲ-1-K, L, M 1) 脳神経機能
6	⑤視覚機能と関連した末梢神経系 専門基礎分野 I-12 専門基礎分野Ⅲ-1-K, L, M 1) 視覚機能と関連した脳神経機能
7	⑥自立神経系 専門基礎分野 I-12 専門基礎分野Ⅲ-1-K, L, M 1) 交感神経系 2) 副交感神経系
8	⑦視覚機能と関連した自律神経系 専門基礎分野 I-12 専門基礎分野Ⅲ-1-K, L, M 1) 交感神経系 2) 副交感神経系
成績評価法	筆記試験 (形成的評価) マークシート試験 (総括的評価)
使用テキスト	
備考	使用器材等: プロジェクター

科目名	発達心理学				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

人の発達についての知識を得、支援のための理論を身につける。

授業計画

1	発達心理学とは
2	ライフサイクル
3	乳児期
4	幼児期
5	児童期
6	青年期
7	成人・老年期
8	試 験
成績評価法	試験、レポート、授業態度による
使用テキスト	なし
備 考	副教材：プリントを配布

科目名	臨床心理学				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

心のしくみについて知り、対人援助のための技術を身につける。

授業計画

1	臨床心理学とは
2	心のしくみ
3	防衛機制
4	ストレス
5	心の病気
6	アセスメント
7	支援技術
8	試 験
成績評価法	試験、レポート、授業態度による
使用テキスト	
備 考	副教材：プリントを配布

科目名	内科学				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

内科的疾患の理解と患者への援助法。

授業計画

1	脳血管系疾患
2	認知症
3	呼吸器系疾患
4	循環器系疾患
5	消化器系疾患
6	糖尿病・膠原病・難病
7	血液系疾患
8	試 験
成績評価法	レポート試験
使用テキスト	
備 考	プリント配布

科目名	小児科学				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

小児科的疾患の理解と患者への援助法。

授業計画

1	周産期の疾患
2	先天性疾患
3	小児喘息、ネフローゼ、糖尿病
4	てんかん、精神疾患
5	悪性腫瘍、白血病
6	感染症
7	感染症
8	試 験
成績評価法	レポート試験
使用テキスト	
備 考	プリント配布

科目名	精神保健				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

精神保健の理解と患者への援助法。

授業計画

1	精神保健とは
2	精神保健衛生法
3	統合失調症・うつ病
4	依存症・自殺・虐待
5	自立とは
6	ストレスとは
7	今後の精神保健の対策と政策
8	試 験
成績評価法	レポート試験
使用テキスト	
備 考	プリント配布

科目名	看護学概論				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

病理学を学び、眼科看護に役立つ意識の修得を目標にする。

授業計画

1	病理学とは
2	炎症・免疫・感染①
3	炎症・免疫・感染②
4	血行について①
5	血行について②
6	遺伝・先天疾患
7	腫瘍について アレルギーについて
8	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	
備 考	副教材：プリント配布

科目名	障害学 I				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

眼科医療のLow Vision Care (LVC) の主な担い手である視能訓練士に必要とされる視覚障害に関する知識と制度を学ぶ。実際のLV診療の紹介と解説をとおりLVケアについて理解を深める。

授業計画

1	LVの定義と範囲
2	医療機関でのLVケア
3	視覚補助具
4	倍率の算定
5	疾患別LVケア
6	ライフステージ別LVケア
7	身体障害者手帳1
8	身体障害者手帳2
成績評価法	レポート
使用テキスト	講師作成の教材
備考	副教材：眼科プラクティス14・ロービジョンケアガイド 視能学 使用機材等：iPad 拡大教科書 OCR（光学的文字認識）

科目名	障害学Ⅱ				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

様々な障害には原因がある。その原因を科学的に解明し考察する能力を養う。

授業計画

1	I. 概論 (障害とは) II. 細胞と組織浮腫
2	II. 代謝障害 1. 糖代謝1 2. 肝機能障害
3	3. 糖代謝2 4. 腎機能障害
4	5. 脂質代謝 6. 生活習慣病 7. 血管の障害
5	8. アミノ酸 タンパク質
6	9. 核酸代謝
7	III. 先天性代謝異常
8	試 験
成績評価法	試験 授業態度 出欠席等総合的に評価する
使用テキスト	生化学 生理学 解剖学などから抜粋して利用する
備 考	副教材：プリント等使用

科目名	栄養学				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

視能訓練士に必要な栄養素の基本と疾患と栄養療法（食事療法）を修得する。

授業計画

1	糖質と糖尿病
2	たんぱく質と高血圧症
3	脂質と脂質異常症
4	ミネラルと腎臓病
5	ビタミンと貧血など
6	食物繊維と消化器疾患
7	栄養補給法
8	栄養素の種類 1
9	栄養素の種類 2
10	ライフステージにおける栄養
11	栄養補給法
12	臨床栄養学1
13	臨床栄養学2
14	人間栄養学について
15	試験
成績評価法	試験
使用テキスト	
備考	副教材：プリント配布 使用器材等：PC・プロジェクター

科目名	視覚生理学 I				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

特殊感覚としての資格機能における光受容の基本原理を理解し、臨床問題の背景を理解する。

授業計画

1	①視覚器 1) 形態と構造 2) 神経伝達路 3) 受容器
2	②視細胞・視物質・光化学反応 1) 明順応 2) 暗順応
3	③光受容機構 1) 電氣的応答 2) イオン機構 3) 光感受性化合物
4	④網膜でのシナプス伝達 1) 網膜像の形成 2) 網膜電図
5	⑤視覚伝導路 1) 上行性伝導路 ⑥大脳皮質 1) 視覚野
6	⑦電気生理学 1) 生体物理の基礎
7	2) ERG 3) VEP
8	4) EOG 5) ENG 6) EMG
成績評価法	筆記試験 (形成的評価) マークシート試験 (総括的評価)
使用テキスト	
備考	使用機材等：プロジェクター

科目名	視覚生理学Ⅱ				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

色覚異常のしくみ、色覚検査の意味と進め方。
社会生活への影響とその対応について理解できる。

授業計画

1	先天色覚異常
2	先天色覚異常 後天色覚異常
3	視覚電気生理
4	視覚電気生理
5	総括
6	総括
7	総括
8	試 験
成績評価法	小テスト 試験
使用テキスト	視能学 第2版 (文光堂)
備 考	副教材：眼科学 第2版 (文光堂) 使用機材等：スライドプレゼンテーション、プリント

科目名	生理光学 I				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

屈折測定理論を理解するための生理光学の基礎。(2学年へ続く)

授業計画

1	球面レンズによる遠用矯正 1
2	球面レンズによる遠用矯正 2
3	球面レンズによる遠用矯正 3
4	球面レンズによる遠用矯正 4
5	乱視眼とその矯正 1
6	乱視眼とその矯正 2
7	乱視眼とその矯正 3
8	乱視眼とその矯正 4
9	乱視眼とその矯正 5
10	乱視眼とその矯正 6
11	調節と近用矯正 1
12	調節と近用矯正 2
13	調節と近用矯正 3
14	調節と近用矯正 4
15	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	プリント教材
備 考	使用器材等: オプティカルベンチ、屈折測定用各種レンズとアクセサリーズ

科目名	生理光学Ⅱ				
学年	2年	時間数	30	単位数	2

授業概要

1. 屈折理論を理解するための生理光学の基礎。(1学年後期からの続き)
2. 眼科臨床で用いるプリズム・眼内レンズ・コンタクトレンズの矯正法を習得し、3年時の臨床実習に備える。

授業計画

1	プリズム屈折力とレンズの偏心 1
2	プリズム屈折力とレンズの偏心 2
3	プリズム屈折力とレンズの偏心 3
4	プリズム屈折力とレンズの偏心 4 遠用レンズの倍率
5	視力 (IogMAR視力を中心として) 1
6	視力 (IogMAR視力を中心として) 2
7	コンタクトレンズの光学
8	生理光学 プリズム
9	生理光学 プリズム
10	生理光学 プリズム
11	生理光学 コンタクトレンズ
12	生理光学 コンタクトレンズ
13	生理光学 眼内レンズ
14	生理光学 眼内レンズ
15	試 験
成績評価法	筆記試験・出席校時数・受講態度
使用テキスト	視能学第2版 その他検査に関するテキスト等
備 考	副教材： ①眼科検査ガイド第1版第4刷・現代の眼科学・眼光学の基礎 等 ②眼鏡矯正とCL矯正で生じるレンズ度数・必要な調節量の差を問う計算問題 ③プリズムの頂角 α° と偏角 δ° とプリズム屈折力P(Δ)の関係および($^\circ$) \leftrightarrow (Δ)の換算を問う計算問題 ④IOL度数を求める計算問題 ⑤Excelで作成した三角関数表と平方根表 使用器材等： ①PowerPoint用のcomputer2台②projector2台③受講生各持参のExcel搭載PC

科目名	視覚機能検査機器学 I				
学年	1年	時間数	30	単位数	1

授業概要

眼科検査で使用する機械について、機器の構造や使用目的を理解する。

授業計画

1	視力検査
2	視力検査
3	視力検査
4	眼鏡・コンタクトレンズ検査
5	瞳孔検査
6	屈折検査
7	屈折検査
8	眼圧検査
9	調節検査
10	視野検査
11	色覚・光覚検査
12	前眼部検査
13	前眼部検査
14	前眼部検査
15	試 験
成績評価法	レポート
使用テキスト	眼科検査ガイド
備 考	副教材：配布プリント 使用機材等：プロジェクタ、眼科検査機器

科目名	視覚機能検査機器学Ⅱ				
学年	1年	時間数	30	単位数	1

授業概要

眼科検査で使用する機器について、機器の構造や使用目的を理解する。

授業計画

1	外眼部・涙道検査
2	光干渉断層計
3	光干渉断層計 前房・隅角検査
4	眼底写真・眼底検査・固視検査
5	眼球運動検査
6	眼球運動検査
7	両眼視機能検査
8	両眼視機能検査
9	両眼視機能検査
10	眼位検査
11	眼位検査
12	眼位検査
13	電気生理検査
14	眼軸長検査 超音波、放射線、画像診断
15	試 験
成績評価法	レポート
使用テキスト	眼科検査ガイド
備 考	副教材：配布プリント 使用機材等：プロジェクタ、眼科検査機器

科目名	医用工学				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

医用工学を放射線学分野に集約し、臨床の場で遭遇する様々な放射線診断装置について、理解に必要な基礎物理学からその原理や特徴までを理解する。

授業計画

1	物理量、単位、物質の構造、原子と電子、放射性同位体
2	光波、電磁波、電磁放射線、粒子放射線
3	X線撮影法、断層撮影法
4	X線CT
5	MR I で必要な電磁気学
6	磁気共鳴画像 (MR I)
7	デジタルX線撮影装置 超音波検査
8	まとめ
9	試験
成績評価法	出席状況、授業態度、試験の総合評価
使用テキスト	配布するプリントをテキストとする
備考	使用器材等：パソコン・プロジェクター

科目名	医学写真				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

写真の基礎を学び、眼科における様々な画像検査を理解する。

授業計画

1	写真の基礎
2	写真の基礎
3	眼底写真の基礎
4	眼底写真の基礎
5	眼底カメラ実習
6	眼底カメラ実習
7	その他の画像検査
8	試 験
成績評価法	試験、出席状況
使用テキスト	検査ガイド
備 考	副教材：レジユメ 使用器材等：PC・プロジェクター・眼底カメラ

科目名	関係法規				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

視能訓練士としての法律知識を学ぶ。

授業計画

1	法の概念①
2	法の概念②
3	医療法の目的
4	医療計画
5	医師法
6	歯科医師法・薬剤師法
7	公的医療保険
8	試験
成績評価法	試験
使用テキスト	
備考	副教材：プリント 使用器材等：パソコン、プロジェクター

科目名	社会福祉				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

医療従事者として、社会福祉の理論や制度について学ぶとともに、現代社会のさまざまな問題についても考察を深める。

授業計画

1	社会福祉とは
2	日本の社会福祉の歴史
3	社会保障制度
4	社会福祉従事者(社会福祉専門職者)
5	児童福祉
6	高齢者福祉
7	障害者福祉
8	試 験
成績評価法	試験、出席状況、授業態度の総合評価
使用テキスト	適宜レジュメを配布する
備 考	

科目名	公衆衛生学概論				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

公衆衛生学概論の内容の多くが、健康と関わりのある事柄であることを理解し、専門職者の一般常識として身につける事を目標。

授業計画

1	総論 人口
2	環境と健康
3	疫学 感染症
4	食品と健康 地域保健
5	母子保健 学校保健
6	成人・老人保健
7	産業保健 精神保健
8	試 験
成績評価法	試験、出席回数
使用テキスト	
備 考	副教材：公衆衛生学（メヂカルフレンド社）国民衛生の動向（厚生統計協会）

科目名	リハビリテーション医学				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

リハビリテーションの定義、リハビリテーション関連医学、リハビリテーションの過程について基本的な概念を習得する。

授業計画

1	リハビリテーション医学総論（Ⅰ）
2	リハビリテーション医学総論（Ⅱ）
3	障害の評価
4	障害の治療
5	障害各論（Ⅰ）
6	障害各論（Ⅱ）
7	授業のまとめ
8	試 験
成績評価法	出席、試験で評価する
使用テキスト	特になし。授業時に資料を配布する。
備 考	使用器材等：7回目の講義でビデオを使用

科目名	保育				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

1. 保育について学ぶ（保育実習対策）
2. 子どもの発達と支援について学ぶ（国試対策）

授業計画

1	子どもの発達と保育
2	子どもとの関わりと実践
3	子どもの発達と支援
4	保育実習とその方法①
5	子どもの発達支援 ビジョントレーニング等
6	保育実習とその方法②
7	子どもの発達・保育事例
8	試験 実習にむけてのまとめ
成績評価法	試験（70%）提出資料（15%）学習意欲・態度（15%）
使用テキスト	発達と保育を支える巡回相談（金子書房）
備考	副教材：保育実習 プリント 使用機材等：プロジェクター・DVD

科目名	視能矯正学概論				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

視能訓練士という職業について、業務、他のスタッフとの関係や患者様との関係を学ぶ。

授業計画

1	視能訓練士とは
2	視能訓練士の業務（眼科医）
3	視能訓練士の業務（視能訓練士）
4	視能訓練士の業務（IC）
5	計画の立て方
6	まとめ
7	先端医療について
8	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	
備 考	使用機材等：プロジェクター、パソコン

科目名	視能矯正学総論 I				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

両眼視機能を成立させる諸要素の理論を理解する。

授業計画

1	斜視総論
2	斜視総論
3	斜視総論
4	斜視総論
5	斜視総論
6	外眼筋の作用と眼球運動
7	外眼筋の作用と眼球運動
8	外眼筋の作用と眼球運動
9	眼位検査
10	眼位検査
11	眼位検査
12	眼位検査
13	眼位検査
14	眼位検査
15	試 験
成績評価法	試験、レポート、実習
使用テキスト	視能学
備 考	

科目名	視能矯正学総論Ⅱ				
学年	2年	時間数	30	単位数	2

授業概要

眼科診療における視能矯正の位置づけと視能訓練士の役割を理解し、「弱視 (amblyopia) の検査と訓練」について臨床と関連させながら学ぶ。

授業計画

1	弱視 (amblyopia) 概説
2	視機能の発達
3	弱視の分類
4	弱視の検査Ⅰ
5	弱視の検査Ⅱ
6	弱視の検査Ⅲ
7	弱視の治療Ⅰ
8	弱視の治療Ⅱ
9	弱視の治療Ⅲ
10	弱視の治療Ⅳ
11	訓練計画
12	弱視訓練への導入
13	弱視訓練への導入
14	英文講読
15	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	視能学第2版
備 考	副教材：プリント教材 使用器材等：視能検査器材各種、固視の検査・訓練器材 アイパッチなど

科目名	視器の解剖・生理・病理学演習				
学年	2年	時間数	30	単位数	1

授業概要

眼科の各検査を通して視器の解剖・生理・病理を学ぶ。

授業計画

1	涙液検査
2	涙液検査
3	屈折検査
4	屈折検査
5	屈折検査
6	屈折検査
7	超音波検査
8	超音波検査
9	眼底検査
10	眼底検査
11	眼底検査
12	電気生理学
13	電気生理学
14	電気生理学
15	試 験
成績評価法	試験（レポート課題）、平常点
使用テキスト	
備 考	副教材：配布資料 使用器材等：実習機器

科目名	視覚生理学演習				
学年	2年	時間数	30	単位数	1

授業概要

視野・色覚・光覚について学習する。

授業計画

1	視野 概念・静的、動的
2	視野 周辺視野、中心視野
3	視野 周辺視野、中心視野
4	視野 視野異常と病変
5	視野 視野異常と病変
6	視野 測定法（ゴールドマン視野計）
7	視野 測定法（ハンフリー視野計・アムスラーチャート）
8	色覚 特性・学説
9	色覚 先天色覚異常・遺伝
10	色覚 後天色覚異常
11	色覚 色覚検査法
12	光覚 視細胞・視色素・光化学
13	光覚 明順応、昼盲
14	光覚 暗順応、夜盲
15	試 験
成績評価法	平常点と試験
使用テキスト	視能学・眼科検査ガイド
備 考	副教材：配布プリント 使用機材等：プロジェクター

科目名	生理光学演習				
学年	2年	時間数	30	単位数	1

授業概要

眼科外来でルーチンに行われる検査について実習する。

授業計画

1	実習 レフラクトメーターを使用した自覚的屈折検査法
2	実習 レフラクトメーターを使用した自覚的屈折検査法
3	実習 レフラクトメーターを使用した自覚的屈折検査法
4	実習 レフラクトメーターを使用した自覚的屈折検査法
5	実習 外来の流れの中での検査（視力、屈折、眼圧、レンズメーター検査）
6	実習 外来の流れの中での検査（視力、屈折、眼圧、レンズメーター検査）
7	実習 外来の流れの中での検査（視力、屈折、眼圧、レンズメーター検査）
8	実習 外来の流れの中での検査（視力、屈折、眼圧、レンズメーター検査）
9	実習 外来の流れの中での検査（視力、屈折、眼圧、レンズメーター検査）
10	実習 被検者に合わせた対応ができる
11	実習 被検者に合わせた対応ができる
12	実習 被検者に合わせた対応ができる
13	実習 眼鏡処方（遠視、近視、乱視、老眼）
14	実習 眼鏡処方（遠視、近視、乱視、老眼）
15	試 験
成績評価法	平常点と実技の習得
使用テキスト	眼科検査ガイド
備 考	副教材：視力表・レンズセット・レンズメーター・レフケラトメーター・眼圧計等

科目名	基礎視能矯正学演習				
学年	1年	時間数	60	単位数	2

授業概要

視能矯正の基礎を学ぶ。
将来、視能訓練士として臨床で応用できるよう基礎知識の習得を目標とする。

授業計画

1	視器の解剖
2	視能矯正学総論
3	視能矯正学総論
4	生理光学
5	生理光学
6	生理光学
7	生理光学
8	視能矯正学総論
9	視能矯正学総論
10	視能矯正学総論
11	視能矯正学総論
12	視能矯正学総論
13	視能矯正学総論
14	視能矯正学総論
15	試 験
16	視能矯正学総論
17	視能矯正学総論
18	視能矯正学総論
19	視能矯正学総論
20	視能矯正学総論
21	視能矯正学総論
22	視覚生理学
23	視覚生理学
24	視覚生理学
25	小児眼科学
26	眼科薬理学
27	神経眼科
28	電気生理学
29	総括
30	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	視能矯正学 改訂第3版
備 考	副教材：配布プリント、視能学第2版 使用器材等：PC、プロジェクター

科目名	視能検査学 I				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

一般的な英語・医学英語を学ぶだけでなく、それを通して基本的な医学の知識も習得する。

授業計画

1	Chapter9 皮膚および感覚器系
2	Chapter9 皮膚および感覚器系
3	Chapter9 皮膚および感覚器系
4	Chapter9 皮膚および感覚器系、皮膚および感覚器系の疾患
5	Chapter9 皮膚および感覚器系の疾患
6	Chapter9 皮膚および感覚器系の疾患
7	Chapter9 皮膚および感覚器系の疾患
8	試 験
成績評価法	試験・小テスト・出席・授業態度
使用テキスト	やさしい医学英語（医学書院）
備 考	

科目名	視能検査学Ⅱ				
学年	2年	時間数	30	単位数	2

授業概要

視能訓練士として必要な眼疾患の知識を習得する。

授業計画

1	結膜疾患
2	結膜疾患
3	角膜疾患
4	強膜疾患
5	ぶどう膜疾患
6	ぶどう膜疾患
7	網膜疾患と硝子体疾患
8	網膜疾患と硝子体疾患
9	網膜疾患と硝子体疾患
10	網膜疾患と硝子体疾患
11	網膜疾患と硝子体疾患
12	網膜疾患と硝子体疾患
13	網膜疾患と硝子体疾患
14	網膜疾患と硝子体疾患
15	試 験
成績評価法	平常点 試験
使用テキスト	病気がみえる 現代の眼科学
備 考	副教材：P.P.

科目名	視能検査学Ⅲ				
学年	2年	時間数	30	単位数	2

授業概要

視能訓練士として必要な眼科の基本的な知識を習得する。

授業計画

1	水晶体疾患
2	緑内障
3	緑内障
4	視神経疾患
5	眼瞼疾患
6	涙器疾患
7	眼窩疾患
8	腫瘍
9	外傷
10	全身病と眼
11	全身病と眼
12	全身病と眼
13	症候群
14	診察・検査
15	試 験
成績評価法	平常点 試験
使用テキスト	病気がみえる、現代の眼科学
備 考	副教材：P.P.

科目名	視能検査学演習 I				
学年	1年	時間数	60	単位数	2

授業概要

乱視表を使って雲霧法を行い、正しい円柱レンズの値を求める
正確に矯正視力値の記載が出来る

授業計画

1	雲霧法による矯正視力測定
2	雲霧法による矯正視力測定
3	雲霧法による矯正視力測定
4	雲霧法による矯正視力測定
5	雲霧法による矯正視力測定
6	雲霧法による矯正視力測定
7	雲霧法による矯正視力測定
8	雲霧法による矯正視力測定
9	雲霧法による矯正視力測定
10	雲霧法による矯正視力測定
11	雲霧法による矯正視力測定
12	雲霧法による矯正視力測定
13	雲霧法による矯正視力測定
14	雲霧法による矯正視力測定
15	試 験
16	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
17	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
18	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
19	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
20	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
21	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
22	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
23	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
24	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
25	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
26	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
27	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
28	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
29	エッセンシャル眼科学 (P86-171)
30	試 験
成績評価法	平常点と試験・課題提出
使用テキスト	配布プリント
備 考	

科目名	視能検査学演習Ⅱ				
学年	1年	時間数	60	単位数	2

授業概要

視能訓練士として必要な眼科の基本的な知識を習得する。

授業計画

1	視機能異常
2	視機能異常
3	視機能異常
4	視機能異常
5	視機能異常
6	視機能異常
7	視機能異常
8	視機能異常
9	視機能異常
10	視機能異常
11	視機能異常
12	視機能異常
13	視神経疾患
14	視神経疾患
15	試 験
16	視神経・視路疾患
17	外眼部・前眼部疾患
18	外眼部・前眼部疾患
19	外眼部・前眼部疾患
20	外眼部・前眼部疾患
21	外眼部・前眼部疾患
22	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患
23	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患
24	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患
25	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患
26	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患
27	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患
28	外傷
29	全身病と眼
30	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	エッセンシャル眼科学
備 考	使用器材等：プロジェクター

科目名	視能検査学実習 I				
学年	2年	時間数	60	単位数	2

授業概要

<ul style="list-style-type: none"> ・ 視野・色覚・光覚について学習する。 ・ 大型弱視鏡について学習する。 <p>器械の構造、準備、操作法、斜視角測定（自覚的、他覚的）、両眼視機能検査、眼球運動検査、正常両眼視機能獲得のための視能訓練</p>

授業計画

1	視野
2	視野
3	視野
4	視野
5	視野
6	視野
7	視野
8	色覚
9	色覚
10	色覚
11	色覚
12	光覚
13	光覚
14	光覚
15	試 験
16	大型弱視鏡
17	大型弱視鏡
18	大型弱視鏡
19	大型弱視鏡
20	大型弱視鏡
21	大型弱視鏡
22	大型弱視鏡
23	大型弱視鏡
24	大型弱視鏡
25	大型弱視鏡
26	大型弱視鏡
27	大型弱視鏡
28	大型弱視鏡
29	大型弱視鏡
30	試 験
成績評価法	平常点と試験
使用テキスト	視能学・眼科検査ガイド
備 考	使用器材等：プロジェクタ・大型弱視鏡 副教材：配布プリント

科目名	視能検査学実習Ⅱ				
学年	2年	時間数	60	単位数	2

授業概要

- | |
|---|
| <p>1. 眼位検査(定性的・定量的)眼球運動検査、輻湊と調節について理解、検査できる。
 2. 斜視検査の種類、検査法、判定方法を理解する。</p> |
|---|

授業計画

1	眼位検査
2	眼位検査
3	輻湊と調節
4	輻湊と調節
5	輻湊と調節
6	問診
7	単眼性眼位検査
8	単眼性眼位検査
9	眼球運動検査
10	眼球運動検査
11	眼球運動検査
12	総合実習及び実習試験
13	総合実習及び実習試験
14	総合実習及び実習試験
15	総括
16	眼位・眼球運動
17	眼位・眼球運動
18	輻湊・開散
19	輻湊・開散
20	注視野
21	注視野
22	近見立体視
23	近見立体視
24	4Δ base out test
25	4Δ base out test
26	総合実習
27	総合実習
28	総合実習
29	総合実習
30	試験
成績評価法	試験・実習・レポート
使用テキスト	視能学
備考	

科目名	眼科薬理学				
学年	2年	時間数	30	単位数	2

授業概要

人体の構造と機能を基本として、疾病の成り立ちと回復の促進について薬理学的に学ぶ。
薬剤に関する基礎知識の習得と各種疾患に対する投与法等の理解。

授業計画

1	薬理学を学ぶにあたって
2	薬理学の知識
3	薬理学の知識
4	抗感染経路
5	抗がん薬 免疫治療薬
6	抗アレルギー薬 抗炎症薬
7	末梢での神経活動に作用する薬物
8	薬理学総論
9	薬物局所投与・神経系薬物
10	ホルモン・抗感染薬
11	抗炎症薬・抗アレルギー薬
12	角膜保護薬・抗新生血管薬
13	抗緑内障薬
14	抗白内障薬、血液凝固系薬
15	視機能検査薬
16	試験
成績評価法	試験
使用テキスト	
備考	副教材：眼科治療薬ハンドブック 視能学 他

科目名	眼疾病学 I				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

眼科領域の基礎疾患
透光体の異常・眼内圧の異常・眼底疾患について

授業計画

1	角膜の生理と異常
2	前房の生理と異常
3	中間透光体の異常
4	白内障の治療
5	眼内圧の生理と病理
6	脈絡膜の生理と疾患
7	網膜の異常と治療
8	眼救急疾患
9	試験
成績評価法	試験
使用テキスト	標準眼科学
備考	使用器材等：教材スライド、資料配布

科目名	眼疾病学Ⅱ				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

国試の出題頻度の高い疾患について病態の発症機序とその検査と評価を理解する。眼疾患の概要と診断・治療等に関わる検査知識を取得する。

授業計画

1	全身疾患と眼合併症
2	緑内障・加齢性黄斑変性
3	硝子体疾患
4	網膜疾患1
5	網膜疾患2
6	網膜疾患3
7	微小斜視 まとめ
8	Duane症候群 復習
9	試験
成績評価法	試験
使用テキスト	現代の眼科学
備考	副教材：プリント・スライド教材の配布

科目名	神経眼科学 I				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

複視や視野障害から、必要な検査計画が立てられる。

授業計画

1	眼球運動障害（末梢性）（1）
2	眼球運動障害（末梢性）（2）
3	眼球運動障害（中枢性）（1）
4	眼球運動障害（中枢性）（2）
5	眼振・異常眼球運動（1）
6	眼振・異常眼球運動（2）
7	実際の患者紹介（スライドビデオ）
8	試 験
成績評価法	講義中の小テスト及び試験
使用テキスト	神経眼科：臨床のために 江本博文ら著（医学書院）
備 考	神経眼科診療の手引（金原出版）

科目名	神経眼科学Ⅱ				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

複視や視野障害などの症状や、検査結果から、病名の診断を答えられる。

授業計画

1	視神経障害 (1)
2	視神経障害 (2)
3	視野障害 (1)
4	視野障害 (2)
5	瞳孔障害、眼瞼異常 (1)
6	瞳孔障害、眼瞼異常 (2)
7	実際の患者提示 (ビデオ・スライド)
8	試 験
成績評価法	講義中の小テスト及び試験
使用テキスト	神経眼科 臨床のために 江本博文ら著 (医学書院)
備 考	神経眼科診療の手引 (金原出版)

科目名	小児眼科学				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

小児の発育と視機能の発達とその異常を考える。

授業計画

1	小児の発育と視機能
2	未熟児と眼疾患
3	周産期医療と眼
4	先天性代謝異常と眼
5	先天性異常と眼
6	先天性眼球突出、下垂
7	涙器、腫瘍
8	斜視・弱視
9	試験
成績評価法	試験
使用テキスト	
備考	副教材：標準眼科学 使用器材等：スライド資料配布

科目名	保健予防学				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

保健予防の専門的知識を学び、対象者の年齢や疾病の状況に応じた支援ができるようにする。

授業計画

1	健康について
2	ストレスについて
3	ストレスと適応
4	感染症について
5	感染症予防
6	免疫について
7	まとめ
8	試 験
成績評価法	出席状況、試験で評価する
使用テキスト	
備 考	副教材：プリント配布

科目名	ロービジョン学				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

ロービジョン者の概要を理解し、対象者の生活上の様々な場面における具体的な支援方法を習得する。

授業計画

1	ロービジョン者を理解する
2	ロービジョン者の視覚補助具 (1) (2)
3	ロービジョン者の視覚補助具 (3)
4	ロービジョン者の視覚補助具 (4)
5	ロービジョン者の読書環境を理解する
6	ロービジョン者と視覚障害者の支援 (1)
7	ロービジョン者と視覚障害者の支援 (2)
8	試 験
成績評価法	試験の点数に出席状況、授業態度を加味して行う。
使用テキスト	
備 考	副教材：配布資料 使用器材等：シミュレーションレンズ、ルーペ、拡大読書器、遮光眼鏡、弱視眼鏡等

科目名	視能訓練学各論 I				
学年	2年	時間数	30	単位数	2

授業概要

斜視を種々の面から分類し、各型の臨床所見、鑑別診断、治療について学習、理解する。各眼筋を支配する脳神経の解剖生理を復習し、麻痺性、筋原性、機械的、他眼球運動障害を伴う各斜視について学習、その病態を全身面なども含め、理解を深める。

授業計画

1	内斜視 1 先天内斜視、後天内斜視
2	内斜視 2 調節性内斜視
3	外斜視 1 間歇性外斜視
4	外斜視 2 恒常性外斜視、続発外斜視
5	交代性上斜位
6	上下斜視・回旋斜視
7	A-V型斜視
8	試 験
9	各神経の解剖生理
10	動眼神経麻痺、滑車神経麻痺
11	外転神経麻痺、全眼筋神経麻痺
12	筋原性斜視 1
13	筋原性斜視 2
14	筋原性斜視 3
15	機械的斜視
16	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	視能学
備 考	副教材：視能矯正・眼科プラクティス・アトラス「斜視」 他

科目名	視能訓練学各論Ⅱ				
学年	2年	時間数	30	単位数	1

授業概要

弱視の定義・原因・分類・検査・治療法について学習する。

授業計画

1	定義・原因・分類
2	病態・分類
3	斜視弱視・微小斜視弱視
4	不同視弱視・屈折異常弱視・経線弱視
5	形態覚遮断弱視
6	診断・屈折検査
7	調節麻痺薬・固視検査
8	屈折矯正・眼鏡処方
9	完全遮閉・不完全遮閉・遮閉具
10	副作用・家庭訓練
11	訓練機器
12	ペナリゼーション
13	薬物による治療
14	治療効果の判断
15	試 験
成績評価法	平常点と試験
使用テキスト	視能学 P410～P436
備 考	副教材：P.P. 使用機材等：プロジェクター

科目名	視能訓練学演習 I				
学年	1年	時間数	30	単位数	1

授業概要

視能訓練士として必要な眼科の基本の知識を習得する。

授業計画

1	視力
2	視力
3	屈折
4	屈折
5	屈折
6	屈折
7	結膜疾患
8	角膜疾患・強膜疾患
9	ぶどう膜疾患
10	ぶどう膜疾患
11	網膜疾患
12	網膜疾患
13	網膜疾患
14	網膜疾患
15	試 験
成績評価法	平常点、試験
使用テキスト	病気がみえる、視能学 副教材：P.P. 使用器材等：プロジェクター
備 考	

科目名	視能訓練学演習Ⅱ				
学年	2年	時間数	60	単位数	2

授業概要

①乱視表を使って雲霧法を行い、正しい円柱レンズの値を求める。
 正確に矯正視力値の記載ができる。
 ②屈折検査のクロスシリンダー法の理論と手技をできるようにする。
 オートレフラクトメータとノンコンタクトトノメータの手技と説明をできるようにする。

授業計画

1	雲霧法による矯正視力測定
2	雲霧法による矯正視力測定
3	雲霧法による矯正視力測定
4	雲霧法による矯正視力測定
5	雲霧法による矯正視力測定
6	雲霧法による矯正視力測定
7	雲霧法による矯正視力測定
8	雲霧法による矯正視力測定
9	雲霧法による矯正視力測定
10	雲霧法による矯正視力測定
11	雲霧法による矯正視力測定
12	雲霧法による矯正視力測定
13	雲霧法による矯正視力測定
14	雲霧法による矯正視力測定
15	雲霧法による矯正視力測定／実習後課題提出
16	屈折検査・眼圧検査
17	屈折検査・眼圧検査
18	屈折検査・眼圧検査
19	屈折検査・眼圧検査
20	屈折検査・眼圧検査
21	屈折検査・眼圧検査
22	屈折検査・眼圧検査
23	屈折検査・眼圧検査
24	屈折検査・眼圧検査
25	屈折検査・眼圧検査
26	屈折検査・眼圧検査
27	屈折検査・眼圧検査
28	屈折検査・眼圧検査
29	屈折検査・眼圧検査
30	試験
成績評価法	試験／平常点と課題提出（10眼）・実技試験とレポート
使用テキスト	
備考	副教材：配布プリント 使用器材等：5m視力検査台、レンズセット、クロスシリンダー、オートレフラクトメータ、ノンコンタクトトノメータ

科目名	視能訓練学演習Ⅲ				
学年	2年	時間数	60	単位数	2

授業概要

斜視弱視診療アトラスP20～P281までを理解する。

授業計画

1	斜視の診断手順・大型弱視鏡
2	大型弱視鏡
3	ステレオテスト・4△base out test
4	AC/A比・固視検査・電気生理検査
5	眼筋麻痺診断手順
6	眼筋麻痺診断手順
7	Hess赤緑試験・牽引試験 テンシロンテスト
8	電気生理検査・眼振検査 放射線検査
9	内斜視①
10	内斜視②
11	外斜視
12	AV型斜視・DVD・過動・不全 上下斜視・偽斜視
13	弱視①
14	弱視②
15	総括
16	神経眼科総論
17	核上性眼球運動障害
18	核上性眼球運動障害
19	神経筋接合部・外眼筋ミオパチー
20	筋性障害・機械的運動障害
21	眼振・眼瞼下垂
22	プリズム矯正
23	遮閉法
24	ペナリゼーション
25	固視訓練
26	大型弱視鏡訓練
27	眼筋麻痺の治療・手術時期
28	斜視の手術
29	斜視の手術
30	試験
成績評価法	試験
使用テキスト	斜視弱視診療アトラス
備考	

科目名	視能訓練学実習 I				
学年	2年	時間数	60	単位数	2

授業概要

1. 眼位・眼球運動の定性・定量の検査を学ぶ。
2. 眼位・眼球運動検査、両眼視機能検査の実際について学ぶ。

授業計画

1	眼位・両眼視機能検査
2	眼位・両眼視機能検査
3	眼位・両眼視機能検査
4	眼位・両眼視機能検査
5	眼位・両眼視機能検査
6	両眼視機能検査
7	両眼視機能検査
8	眼位検査
9	眼位検査
10	眼位検査
11	眼位検査
12	眼位検査
13	眼位検査
14	眼位検査
15	試 験
16	実習
17	実習
18	実習
19	実習
20	実習
21	実習
22	実習
23	実習
24	実習
25	実習
26	実習
27	実習
28	実習
29	実習
30	試 験
成績評価法	実技試験・レポート・平常点
使用テキスト	眼科検査ガイド第2版
備 考	副教材：配布プリント

科目名	視能訓練学実習Ⅱ				
学年	2年	時間数	60	単位数	2

授業概要

実技の総合練習。基礎実習を学ぶ。
視力・視野の基本的な検査法と疾患別検査法について学ぶ。

授業計画

1	実習授業の解説・実習
2	実習解説後実習
3	実習解説後実習
4	実習解説後実習
5	実習解説後実習
6	実習解説後実習
7	実習解説後実習
8	実習解説後実習
9	実習解説後実習
10	実習解説後実習
11	実習解説後実習
12	実習解説後実習
13	実技試験（確認）・実習
14	実技試験（確認）・実習
15	筆記試験（確認）
16	実習解説後実習
17	実習解説後実習
18	実習解説後実習 応用
19	実習解説後実習 応用
20	実習解説後実習 応用
21	実習解説後実習 応用
22	実習解説後実習 応用
23	実習解説後実習 応用
24	実習解説後実習 応用
25	実習解説後実習 応用
26	実習解説後実習 応用
27	実習解説後実習 応用
28	実習解説後実習 応用
29	実習解説後実習 応用
30	実技試験
成績評価法	実技試験、課題、平常点
使用テキスト	眼科検査ガイド第2版
備考	副教材：配布資料

科目名	視能訓練学実習Ⅲ				
学年	3年	時間数	30	単位数	1

授業概要

臨地実習前の確認。

授業計画

1	実習ロールプレイング
2	実習ロールプレイング
3	実習ロールプレイング
4	実習ロールプレイング
5	実習ロールプレイング
6	実習ロールプレイング
7	実習ロールプレイング
8	実習ロールプレイング
9	実習ロールプレイング
10	実習ロールプレイング
11	実習ロールプレイング
12	実習ロールプレイング
13	実習ロールプレイング
14	実習ロールプレイング
15	試 験
成績評価法	試験（レポート）
使用テキスト	
備 考	

科目名	臨地実習 I				
学年	3年	時間数	180	単位数	4

授業概要

眼科臨床の実際を学び、眼科で働く上で必要なスキルやマナーを身につけること。

授業計画

1～90	<p>眼科臨床に出て22日間の臨地実習を行う ※学内実習・臨地実習準備期間含む</p> <p>臨地実習を通して、視力検査・屈折検査、調節検査、視野検査、色覚検査、眼球運動検査、両眼視検査、外眼部検査、電気生理学的検査、眼圧検査、涙液検査をはじめとする眼科臨床に必要な手技ができるようになる。 また、眼科臨床で働く心構えや、コミュニケーション能力、患者の接遇および誘導、チーム医療と医療安全の実際を理解する。</p>
成績評価法	出席、実習態度、患者およびその家族への接し方、対人関係、基礎知識についての理解度、検査についての理解度、視能矯正についての理解度から総合的に評価する
使用テキスト	
備考	

科目名	臨地実習Ⅱ				
学年	3年	時間数	180	単位数	4

授業概要

眼科臨床の実際を学び、眼科で働く上で必要なスキルやマナーを身につけること。

授業計画

1～90	<p>眼科臨床に出て22日間の臨地実習を行う ※学内実習・臨地実習準備期間含む</p> <p>臨地実習を通して、視力検査・屈折検査、調節検査、視野検査、色覚検査、眼球運動検査、両眼視検査、外眼部検査、電気生理学的検査、眼圧検査、涙液検査をはじめとする眼科臨床に必要な手技ができるようになる。 また、眼科臨床で働く心構えや、コミュニケーション能力、患者の接遇および誘導、チーム医療と医療安全の実際を理解する。</p>
成績評価法	出席、実習態度、患者およびその家族への接し方、対人関係、基礎知識についての理解度、検査についての理解度、視能矯正についての理解度から総合的に評価する
使用テキスト	
備考	

科目名	臨地実習Ⅲ				
学年	3年	時間数	180	単位数	4

授業概要

眼科臨床の実際を学び、眼科で働く上で必要なスキルやマナーを身につけること。

授業計画

1～90	<p>眼科臨床に出て23日間の臨地実習を行う ※学内実習・臨地実習準備期間含む</p> <p>臨地実習を通して、視力検査・屈折検査、調節検査、視野検査、色覚検査、眼球運動検査、両眼視検査、外眼部検査、電気生理学的検査、眼圧検査、涙液検査をはじめとする眼科臨床に必要な手技ができるようになる。 また、眼科臨床で働く心構えや、コミュニケーション能力、患者の接遇および誘導、チーム医療と医療安全の実際を理解する。</p>
成績評価法	出席、実習態度、患者およびその家族への接し方、対人関係、基礎知識についての理解度、検査についての理解度、視能矯正についての理解度から総合的に評価する
使用テキスト	
備考	

科目名	臨地実習Ⅳ				
学年	3年	時間数	180	単位数	4

授業概要

臨地実習で習得した知識を国家試験応用出来るように整理し、確認する。

授業計画

1～30	43回～50回の国家試験問題と解説を行い、試験問題、回答の理解度の確認と習得をする。
31～90	
成績評価法	
使用テキスト	視能学、斜視弱視診療アトラス
備考	

科目名	保育、社会福祉実習				
学年	2年	時間数	45	単位数	1

授業概要

実際の幼稚園における実習。
 保育実習を通して、年齢による子どもの発達やコミュニケーションの違いを学び、各年齢の子供たちとの接し方・声かけができるようになること。

授業計画

1	保育実習オリエンテーション
2	保育実習オリエンテーション
3	保育実習オリエンテーション
4	保育実習オリエンテーション
5	保育実習オリエンテーション
6	事前訪問
7	保育実習 1日目
8	保育実習 1日目
9	保育実習 1日目
10	保育実習 1日目
11	レポート作成
12	保育実習 2日目
13	保育実習 2日目
14	保育実習 2日目
15	保育実習 2日目
16	レポート作成
17	面談
18	保育実習発表準備
19	保育実習発表準備
20	保育実習発表準備
21	保育実習発表準備
22	保育実習発表会
23	試験
成績評価法	出席、実習態度、園児およびその家族への接し方、対人関係、基礎知識についての理解度から、総合的に評価する
使用テキスト	
備考	

科目名	国家試験対策				
学年	3年	時間数	180	単位数	12

授業概要

国家試験合格に向けての総合確認。

授業計画

1～4	視能学全般
5～8	視能学全般
9	過去問の解説と回答1
10	過去問の解説と回答2
11	過去問の解説と回答3
12	過去問の解説と回答4
13	過去問の解説と回答5
14	過去問の解説と回答6
15	血液と消化
16	内分泌循環
17	感覚器
18	神経系
19～22	視覚生理学
23	眼発生の異常
24	眼機能の全身病
25	加齢性黄斑変性 網膜疾患
26	周産期眼疾患
27～30	模擬試験
31～34	模擬試験
35～38	模擬試験

科目名	国家試験対策				
学年	3年	時間数	180	単位数	12
39～40	模擬試験				
41～48	視能訓練学				
49～55	基礎視能矯正学				
56	視能障害学 欧米文献（副教材）				
57～61	基礎視能矯正学				
62～63	基礎医学大要&基礎視能矯正学				
64	視能検査学				
65～68	眼疾患学、検査、訓練学、斜視、弱視（第43回国試問題）				
69～72	眼疾患学、検査、訓練学、斜視、弱視（第44回国試問題）				
73～76	眼疾患学、検査、訓練学、斜視、弱視（第45回国試問題）				
77～80	眼疾患学、検査、訓練学、斜視、弱視（第46回国試問題）				
81～84	眼疾患学、検査、訓練学、斜視、弱視（第47回国試問題）				
85～86	眼疾患学、検査、訓練学、斜視、弱視（第48回国試問題）				
87～88	基礎的な復習（1）				
89～90	基礎的な復習（2）				
成績評価法	模擬試験により評価				
使用テキスト	視能学第2版、現代の眼科学、斜視弱視診療アトラス、神経眼科 診療の手引 他				
備考	副教材：プリント配布 使用器材等：PC、プロジェクター				

科目名	症例検討				
学年	3年	時間数	15	単位数	1

授業概要

臨地実習で経験した症例を研究し発表する。

授業計画

1	症例検討発表準備
2	症例検討発表準備
3	症例検討発表準備
4	症例検討発表準備
5	症例検討発表準備
6	症例検討発表準備
7	症例検討発表
8	症例検討発表
成績評価法	症例検討発表会、平常点
使用テキスト	
備考	使用器材等：PC・プロジェクター